



# 長安口ダム改造事業

## 安定水供給で世界トップのLED生産拠点を支える!!

現在 now



将来 future

インフラ

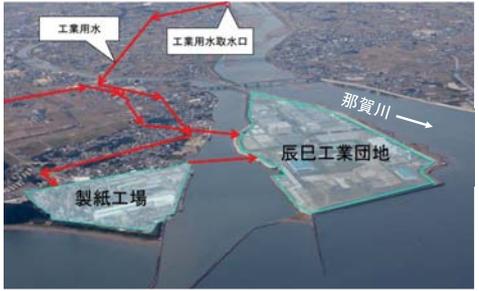


長安口ダム改造及び川口ダム(県)との連携(容量配分の見直し)により  
**治水・利水安全度が向上**



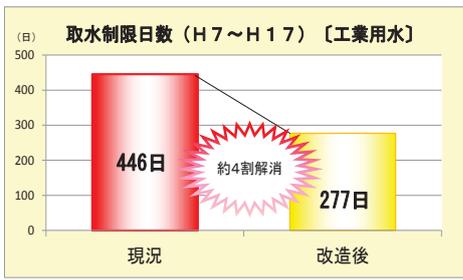
平成30年完成予定

地域



### 〈立地企業の声〉

生産活動維持には安定した質・量の用水確保が不可欠。安心して事業活動を営むため、一日でも早い改造事業完成を！



取水制限の改善

那賀川下流域には、**世界シェア1位の高輝度発光ダイオード**(世界シェア20%)、**RO紙**(下水処理等に用いる分離膜支持体紙)などの**生産企業が立地**

工業用水の取水制限による生産規模縮小や操業停止などの**渇水被害が頻発**

(H17年時、取水制限日数113日、工業被害額68.5億円)

長安口ダム改造等により、**企業運営の安定化、更なる企業進出、定住促進**に寄与





既存フェリー(手前)と新造フェリー(奥)

# 徳島小松島港沖洲(外)地区複合一貫輸送ターミナル整備事業 四国横断自動車道 阿南四万十線 阿南～徳島JCT

## 四国の産業を支える物流拠点！

現在 now

将来 future



港湾と道路  
の連携整備  
物流効率化



**フェリー運航会社**  
平日は常に満載で積み残しが発生

**運送事業者**  
長距離ドライバーが不足

岸壁水深 7.5m

11,500トン級  
120台  
積載可能  
平成24年 造成前

船舶の大型化に対応

**フェリー運航会社**  
トラック運転手不足が恒常化しつつあるため、フェリー需要は今後高くなる見込み

**運送事業者 荷主(製造業)**  
・長距離陸上輸送と比較してコスト縮減  
・CO<sub>2</sub>削減のため、モーダルシフトを計画

耐震強化岸壁  
岸壁水深 8.5m

船舶の大型化  
15,000トン級  
190台  
積載可能  
増深

生産性向上に寄与

徳島小松島港は、四国4県の貨物を集約し、東京・九州へ毎日フェリーで輸送できる四国で唯一の港湾

岸壁の完成にあわせたフェリーの大型化により、**輸送能力が年間約4.4万台から約6.9万台に増加予定**  
(新造船「フェリーびざん」がH28年1月に就航。その他の新造船がH28年度に3隻就航予定)

高速道路のICと直結する港湾の輸送ターミナルの構築により、**四国の輸送効率を向上する物流拠点を形成**

四国内企業約50社が定期利用



MAP

生産性向上に寄与し  
今後さらなる発展へ



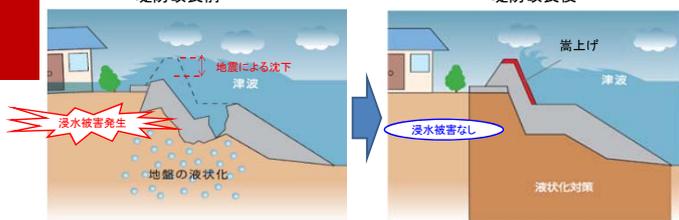
鳴門市街地

撫養港海岸 直轄海岸保全施設整備事業

堤防改良で地震津波による浸水被害から  
人命及び財産を守る！

現在 now >>> 将来 future

インフラ



整備効果

背後地は住宅が密集し、公共施設が集中する  
鳴門市の中心エリア



作業員の安全性を最優先させた  
陸間の自動化・電動化整備

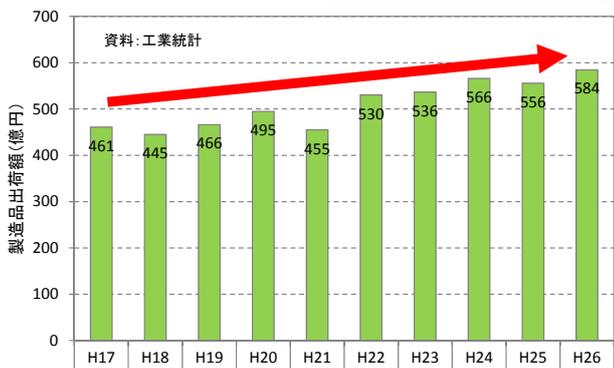
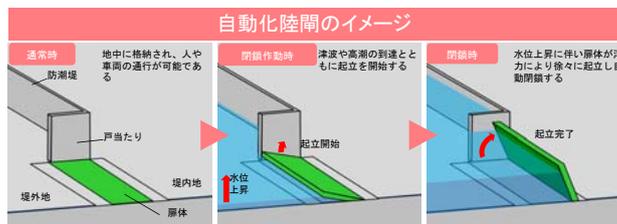
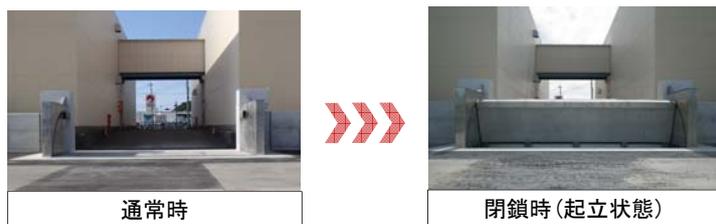


図 化学工業(塩製造業、医薬品製剤製造業等)の製造品出荷額推移(鳴門市)

撫養港海岸の防護区域には、我が国屈指の製塩企業および輸液製剤のトップメーカーである大手製薬の関連企業が立地。撫養港海岸が位置する鳴門市の化学工業の製造品出荷額は、年々増加傾向にある。



坂手港坂手地区離島フェリーターミナル整備事業(交付金事業)

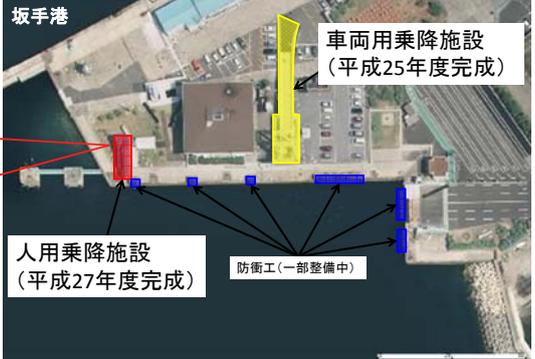
島民の暮らしと観光産業を支える

現在 now

将来 future

離島フェリー乗降客の  
利便性向上(バリアフリー化)

インフラ



平成28年度事業完了予定

瀬戸内国際芸術祭期間中の  
経済効果・来場者数(香川県内)

	経済効果	来場者数
第1回(2010年)	111億円	94万人
第2回(2013年)	132億円	107万人

瀬戸内国際芸術祭春会期の来場者数比較

2013年	7,970人/日
2016年	8,768人/日

1日あたりの来場者数  
約800人増加  
→経済効果が期待される



来場者・島民からの声(2013年)  
・次回もまた来たい(来場者8割以上)  
・瀬戸芸を通じて、地域が一丸になることができ、島民同士の結束ができた。  
・船で旅をするというコンセプトが良かったのではないかと。

出典：瀬戸内国際芸術祭実行委員会資料より四国地整作成

観光産業による経済の活性化

小豆島と高松及び神戸を結ぶ定期航路が就航している坂手港において、高齢者・身体障害者等のフェリー乗降客の利便性を向上させるため、香川県において港湾施設整備を実施中(交付金事業)

3年ごとに瀬戸内国際芸術祭が開催されており、外国人観光客を含む多数の来場者に対する利便性も向上し、観光産業を通じた地域経済の活性化にも寄与





# 高松港(玉藻地区)緑地整備事業(交付金事業)

## 活力ある緑の海辺空間

現在 now

将来 future

インフラ



約20年



キャストルプロムナード イメージ図 (H22年度 キャストルプロムナード デザインコンペ 優秀作品より)

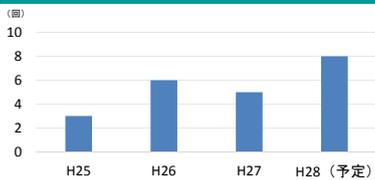


平成33年度 事業完了予定

観光産業による経済の活性化

地域

高松港におけるクルーズ寄港回数の推移



2015年8月に高松港に寄港した「飛鳥Ⅱ」の1寄港あたりの経済効果は約3,000万円(香川県試算)。

瀬戸内国際芸術祭期間中の経済効果・来場者数(香川県内)

	経済効果	来場者数
第1回 (2010年)	111億円	94万人
第2回 (2013年)	132億円	107万人

出典：(株)日本政策投資銀行・瀬戸内国際芸術祭実行委員会

- キャストルプロムナードの整備により、陸側のみでなく、海側からの景観も配慮
- 都市と海を融合させた魅力的な海辺空間としての賑わいを創出

観光産業を通じた地域活性化に寄与

高松城趾前に「キャストルプロムナード」として緑地整備を実施中(交付金事業)

「アート県 かがわ」に訪れるクルーズ旅客や瀬戸内国際芸術祭の期間に訪れる外国人観光客を含む多数の来場者に対し景観を向上し、魅力的な海辺空間を創ることで、更なる観光客の増加を図り、観光産業を通じた地域活性化に寄与

緑地前面の護岸は、地震・津波対策としても機能する護岸であり、サンポートを訪れる観光客の安全を確保

瀬戸内国際芸術祭2016





# 四国横断自動車道 阿南四万十線 鳴門～高松市境

## 高松道で「観光かがわ」を推進！！

現在 now



将来 future

インフラ



休日の渋滞状況

鳴門～高松市境までの  
アクセス向上(4車線化)



高松自動車道  
を4車線化

平成30年度  
完成予定

地域



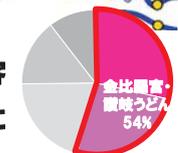
「観光かがわ」を推進し  
ており、高松道の4車  
線化に大きく期待！  
(香川県の声)

県東部にも  
観光客の増加が期待



観光5力年計画

県外から香川県に訪れる観光客  
⇒5割以上が県西部を目的地に



来県理由(県外観光客アンケート)

高松道の4車線化により休日渋滞を解消し、  
周遊観光促進で県外観光客を誘致

「うどん県。それだけじゃない香川県」で県外観光客数  
980万人を目指す香川県の観光戦略を支援

MAP









# 東予港西条地区防波堤整備事業(産業関連事業)

## 世界に誇る日本の造船業を支える

現在 now

将来 future

インフラ

東予港西条地区における台風等による高潮や荒天時の波浪による被害状況



【公共岸壁】



【専用岸壁】

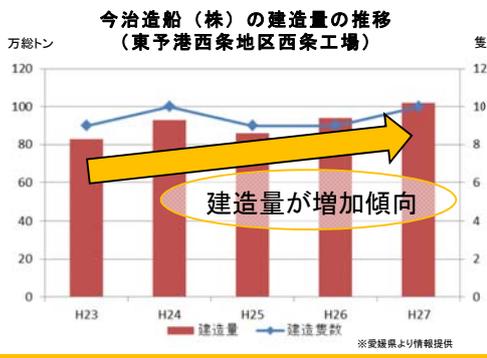
防波堤整備による背後地の  
利便性・安全性向上

泊地増深による  
大型建造船への対応



平成28年度 事業完了予定

地域



〈立地企業の声〉  
造船業の国際競争は一層激しさを増しており、競争力確保のために大型船の建造を計画している。

主な建造船(船の種類)イメージ

船の種類	建造に必要な水深	船の長さ
貨物船 (18万DWT級)	5.5m	約290m
タンカー船 (31万DWT級)	7.5m	約330m
天然ガス運搬船 (18万m級)	7.5m	約300m



現在の泊地水深「5.5m」から「7.5m」に深くすることで、さらに大きな船舶の建造が可能となる

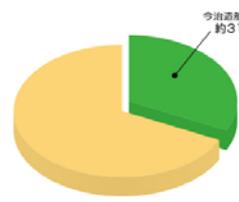
より大型の船舶が建造可能

台風被害の軽減および岸壁前面の波を穏やかにするために、愛媛県が産業関連事業にて防波堤等を整備中

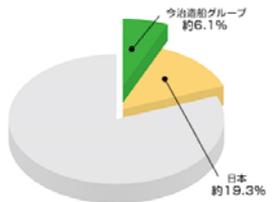
当該施設の整備において、一部、西条市の事業(岸壁、泊地整備)と併せて施設を整備することにより、造船業の振興、地域雇用の増大、地域経済の活性化等に寄与

高い技術力を持つ日本の造船業のシェアは、中国、韓国に次ぐ世界第3位を誇っており、中でも今治造船(株)は建造量日本一(シェア31.4%)

日本の建造量における今治造船のシェア(2015年)



世界の建造量における今治造船のシェア(2015年)



※財団法人 造船協会 調べ

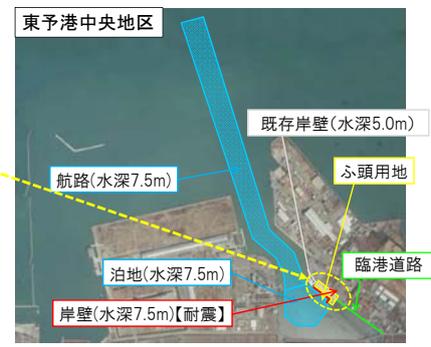


# 東予港中央地区複合一貫輸送ターミナル整備事業

フェリー輸送を支える港湾整備  
輸送ルートが多様化により物流生産性向上！

現在 now >>> 将来 future

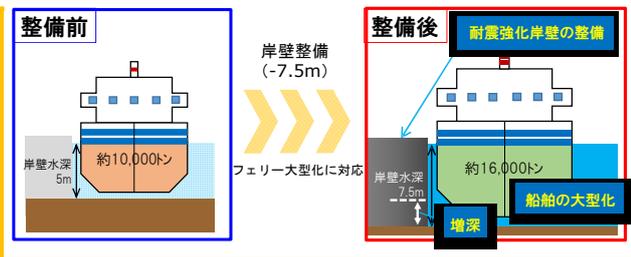
インフラ



平成30年 供用予定

愛媛-大阪を結ぶフェリーが就航している東予港において、フェリーの大型化等に対応した耐震強化岸壁等を整備し、輸送効率化を図るとともに、緊急物資輸送拠点を確保

輸送コスト **13.2億円/年削減**  
積載台数 **4割増加** (8tトラック換算)



平成28年4月に東九州自動車道(北九州市~宮崎市)が開通し、陸送及びフェリー輸送を活用した九州-四国-関西を結ぶネットワークが強化され、更なる物流効率化が期待

### 四国ルート利用のメリット

- フェリー利用により、トラックドライバーの労務管理上のメリットが生じる
- トラック輸送のみの場合より、定時性の確保がしやすくなる

四国ルート利用による車両運転距離の短縮

	運転距離(本州ルート→九州ルート)	
大分-関西	約7割短縮	(750km→200km)
宮崎-関西	約6割短縮	(890km→330km)
鹿児島-関西	約4割短縮	(880km→520km)

※各県庁所在地より吹田ICまで。本州ルートとの比較。



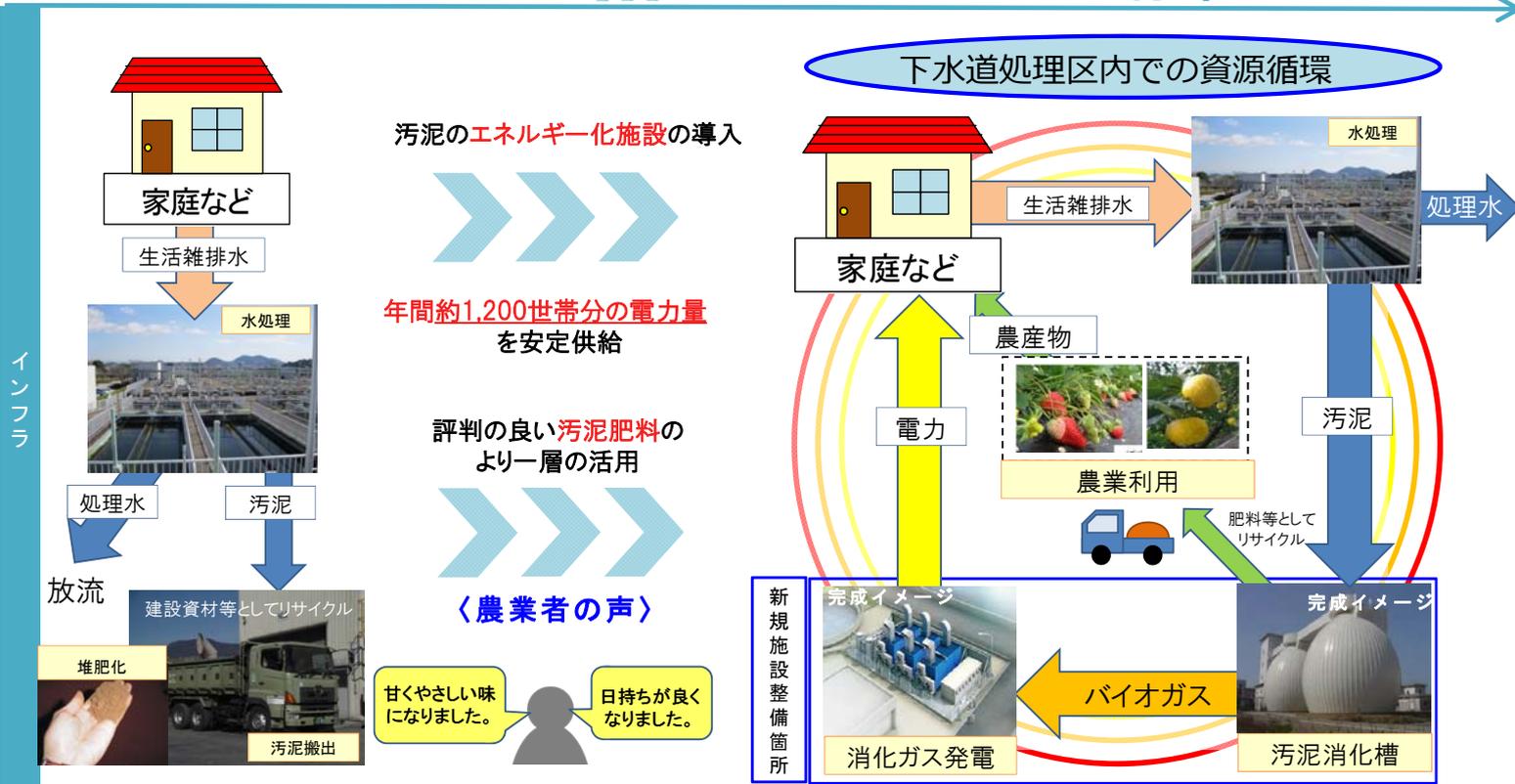


# 高須浄化センター汚泥消化施設整備事業

## 高知の新たな資源を掘り起こせ！！

現在 now

将来 future



- 消化施設を整備することで、産業廃棄物である下水汚泥の発生量を減量化→処理コスト減！
- 汚泥削減により発生するバイオガスを利用した発電。安定供給できる新エネルギーの創出。
- 汚泥由来の肥料を活用拡大し、質の高い農作物・農産品の生産に寄与。



日高村

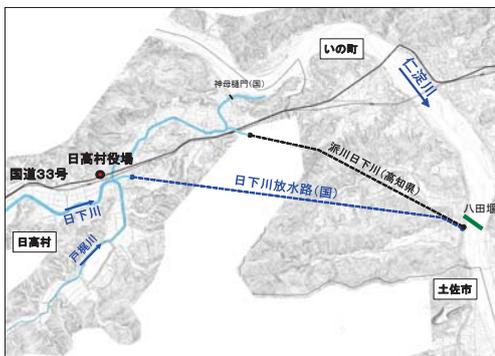
仁淀川床上浸水対策特別緊急事業(日下川)

シュガートマトなど地域の産業の発展へ！

現在 now

将来 future

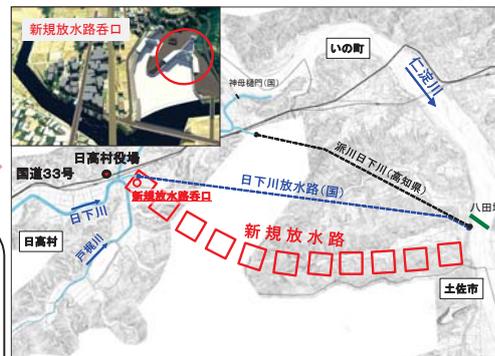
インフラ



放水路の整備により  
浸水被害を軽減

戸梶日高村長コメント

日下川新規放水路の早期整備効果の発現に大きな期待！  
農業クラスター事業や日高まるごとイタリアンプロジェクト等を推進し、地域のくらしや産業、経済が輝く流域の未来を描きます。



平成32年度 完成予定

地域



平成26年8月台風12号による農作物等被害状況

被害項目	被害額
トマト選果設備	約413百万円
トマト	約 48百万円

トマトハウス団地の浸水状況



地域の活性化

生産者のコメント



平成13年にターンし、シュガートマトを栽培しています。収穫前に、ハウスが浸水すれば、最悪の場合、全滅する恐れもあり、農業経営の破綻にもつながりかねません。治水事業の早急な完成をお願いします。

日高村は、付加価値の高いシュガートマトの生産地。消費者から生産増量の要望もあり、「ハウス増設計画」が進行中

トマトを素材としたオムライスを提供する「オムライス街道」で賑わい、更なる発展として「ピザ街道」等「日高まるごとイタリアンプロジェクト」が始動

日下川新規放水路の建設により、浸水被害を軽減し、トマトの安定的な供給と上記プロジェクトの推進に寄与





# 高知港三里地区国際物流ターミナル整備事業

## 物流拠点の整備で地域の活力・防災力向上

現在 now

将来 future

**インフラ**

高知港三里地区  
岸壁(約9m) 岸壁(約11m) 岸壁(約12m) 2m-2  
H26岸壁供用(東側) 防波堤(南) L=1,000m 防波堤(北) L=1,300m  
L=200m L=100m  
航路・泊地  
陸揚用地 高知自動車道  
防波堤の延伸

(S53時点) 近海(海上)埋立(17.2)

**平成26年度 東側岸壁供用開始**

### 高知港海岸における地震・津波対策の方針

○高知市の中心部が浦戸湾奥部に位置するという地理的特性を踏まえ、3ラインでの対策による「三重防護」による対策を進める。

高知港三里地区  
第一線防波堤を粘り強い構造へ補強

高知港海岸における三重防護のイメージ

- 第1ライン** 第一線防波堤(難湾建設)
  - 【効果】津波エネルギーの減衰・高知新港の港域機能の確保
- 第2ライン** 湾口地区 岸壁防波堤、外縁部防波堤等
  - 【効果】津波の侵入や北上の防止・低減
- 第3ライン** 浦戸湾地区 内部護岸等
  - 【効果】積岸の倒壊や背後地浸水の防止等

**地域**

高知港三里地区の利用状況

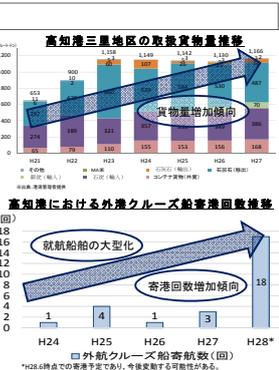
### 産業を支える原材料の輸出入

石灰石輸出、移出 石灰輸入 ヤシ殻輸入

高知県唯一の外貨コンテナ取扱

増加する大型クルーズ船就航

クルーズ船接岸 賑わう観光客



### 高知港三里地区の防災拠点としての機能

高知港三里地区を活用した緊急物資輸送 高台企業用地造成による災害対応力強化

高知自動車道 高知IC 高知新港 浦戸湾内の海上停泊 には時間を要する

整備イメージ

**地震・津波発生時の役割**

- ◆地震・津波発生時には、高知新港で働く人々や船舶寄港時の乗客等の避難場所として活用
- ◆地震・津波発生後には、耐震強化岸壁と連携し、復旧・復興に向けた防災拠点として活用(企業と防災協定の締結を要)

- 高知港三里地区国際物流ターミナルの整備に伴い、大水深の西側岸壁及び東側岸壁が供用開始し、大型貨物船だけでなく、大型クルーズ船も入港可能に
- 高知港海岸における地震・津波対策の取り組みとして、第一線防波堤を粘り強い構造へ補強することにより、発災後の高知港三里地区の港湾機能を確保
- これらの取り組み等により、物流拠点として企業の産業活動を支えるとともに、災害時に耐震強化岸壁等を活用し、緊急物資輸送や地域経済の復旧・復興を可能とする
- なお、災害時は高知港三里地区で陸揚げした緊急物資を臨港道路経由で高知市中心部へ、更に高知自動車道経由、四国8の字ネットワークとの連携により、広域へ輸送

### 四国8の字ネットワーク

事業実施地区 8の字ネットワーク(供用/暫定供用含む) 8の字ネットワーク(計画/予定) その他他機関連携ネットワーク